

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 15 日現在

機関番号：14601

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2014～2016

課題番号：26381201

研究課題名（和文）＜美術教育における「あそび」概念の整理・構築＞に基づく題材並びに授業モデル開発

研究課題名（英文）Development of Teaching Themes and Model Based on Well-Developed Concept of "Play" in Art Education

研究代表者

宇田 秀士（Uda, Hideshi）

奈良教育大学・教育学部・教授

研究者番号：20283921

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,600,000円

研究成果の概要（和文）： 先ず、「造形遊び」を含めて美術教育実践と縁が深い「あそび」概念全体の整理・構築を精緻に行い、混乱や誤解を解消しようとした。また、「あそび」の整理・構築に基づく＜美術教育＞題材の開発を行い、小学校、中学校、高校などで実践し、その検証をした。各協力者勤務校での授業動画記録、作品写真を基に、授業モデルとして、動機付け、試行錯誤、教科領域横断的な思考、活動の継続性（繰り返し）の場面を取り入れた事例モデルを作成した。そして、大学教育や現職教育などでの教師教育プログラムに反映させた。

研究成果の概要（英文）： Firstly, this study has intention to eliminate confusion and misinterpretation by means of analyzing in detail and affirming the concept of "play", including the concept of "playful art study" which is closely related to the actual practice of art education. We developed the teaching themes and model based on well-developed concept of "play" in art education and, then, they were put into practice at elementary and junior and senior high schools for verification. Furthermore, model cases for teaching incorporating motivation, trial and error, interdisciplinary thought and scenes of continual (repetitive) activities were developed based on video recordings and photographic works produced in the process of teaching at the schools of the partners. The results were reflected in a teacher training program at college and for incumbent teachers.

研究分野：美術科教育学

キーワード：美術教育 図画工作 造形表現 あそび 造形遊び 現代アート 内発的動機付け 芸術概念の拡張

1 . 研究開始当初の背景

1977 年版学習指導要領に初めて登場した「造形遊び」という言葉とその概念は、関連著作の中で多義的に遣われ混乱や誤解を生んできた。その状況をふまえて 2003 年に奈良教育大学で開催した美術科教育学会第 5 回西地区会で永守基樹氏は、「造形遊び」に見られる以下の 3 つの性格を指摘した¹⁾。

汎領域的な基礎教育

教科の中の領域 (内容)

図画工作科全般にわたる理念や方法

まず、は、幼年期の「遊び」的な造形活動も視野に入れた全領域に通じる「基礎教育的な側面」、は、アクション・ペインティング、アース・ワークなど「造形遊び」がアートの歴史に示唆を得た「活動内容の側面」をそれぞれ示している。これらのアートからの示唆があったからこそ、「造形遊び」は「身体性を意識しながら、場や材料」との対話から始まる活動とされている。さらに は、図画工作科教育全体の基調に「造形遊び」の理念をおき、これを全ての造形活動に活かそうとした 1989 年当時の教育政策をふまえた「理念・方法的な側面」といえる。

本研究では、永守氏の示した「造形遊び」の 3 つの性格をふまえて、研究代表者のこれまでの「造形遊び」や「遊び」に関する研究成果から、美術教育実践の全体像における「遊び」概念の整理をする。「遊び」概念が未整理なままでは、少なくとも美術教育実践の次元では、これまでの混乱や誤解が続いてしまうからである。

2 . 研究の目的

現代の日本の美術教育において、「あそび」概念は大変重要なものである。しかし、言葉は、元来、多義的なものであり、「あそび」概念もまた例外ではなく多くの意味を抱え込んでいる。美術教育における「あそび」概念も、それ故に混乱や誤解を生んできた歴史がある。

とりわけ文部科学省学習指導要領図画工作編にある「造形遊び」という<言葉・概念>も、関連の著作で多義的に遣われ、多くの混乱が生まれてきた。「造形遊び」を含めて美術教育実践と縁が深い「あそび」概念全体の整理・構築を精緻に行い、混乱や誤解を解消する意図が本研究にはある。

3 . 研究の方法

具体的には、以下の 3 つの課題を設定して行う。

<研究課題 1 美術教育における「あそび」概念の整理・構築>

<研究課題 2 「あそび」概念の整理・構築に基づく<図画工作・美術科>題材及び授業モデル開発並びにその実践検証>

<研究課題 3 美術教師教育プログラムへの展開>

(1) 課題 1 については、2013 年 12 月 21 日に開催した<美術教育における「遊び」概念と指導>研究会 (- 美術科教育学会プレ学会)²⁾の記録集を作成・刊行し、ここにみられる実践や発言をもとに、「遊び」概念の整理、考察を行う。

さらに、現代アートと教育実践との繋がりについて、国内外の文献研究を行い、現代アートの原理と教育原理の共通基盤について考察した。これに関連しては、海外共同研究者のウアラス教授 (ドイツ・ハイデルベルク教育大学) や徳博士 (米国・カリフォルニア州立大学チコ校) と情報・意見交換する。

(2) 課題 2 については、2 ヶ月に 1 回程度、小学校、中学校、高校教員、絵画教室指導者などの研究協力者との打ち合わせ会を持つ。そして、代表者が整理した課題 1 の内容について、研究協力者と意見交換をする。代表者が、<単元・題材>開発を進めるシステムを大学において整備し、学習資料、教具を作成し、協力者に配布した。各協力者は、先行実践を学び各勤務校の情報を交換し検討

する。その上で、代表者からの素案を基に、<単元・題材・授業モデル>開発を進め、各勤務校で実践・検証する。

「造形遊び」を活かした描画活動や環境芸術題材、妖怪や幽霊などの形態を表現に連鎖させる「鑑賞あそび」題材、3D スキャナー・コピー活用の「うつし遊び」題材、版遊びを活かした描画題材などの<単元・題材>を開発する。

また、各研究協力者勤務校での授業動画記録、音声記録、作品写真を基に、授業モデルとして、動機付け、試行錯誤(行きつ戻りつ)の思考、教科領域横断的な思考、活動の継続性(繰り返し)の場面を取り入れた事例モデルを作成する。

(3) 課題3については、課題1, 2の研究をふまえ、大学教育及び現職教員研修会などで試行をする。このとき、教師が内包する<意識-規範・文化>(-実践を推進する意識とその根底にある規範や文化)の視点に留意しながら行う。

4. 研究成果

(1) <研究課題1 美術教育における「あそび」概念の整理・構築>については、先ず、「造形遊び」を含めて美術教育実践と縁が深い「あそび」概念全体の整理・構築を精緻に行い、混乱や誤解を解消しようとした。そして、2013年12月21日に開催した<美術教育における「遊び」概念と指導>研究会(-美術科教育学会第36回奈良大会プレ学会)の記録集を作成し(2014.12)、ここにみられる実践や発言をもとに、「遊び」概念の整理、考察を行った。

また、その一端については、「美術教育実践を担う者にとっての「遊び」概念とは? -<主体的な造形活動>と<芸術活動の拡がり>の中で-」(2016)、「美術教育における「遊び」概念の諸相: 教師の<意識-規範・文化>をふまえて」(2017)として誌上発表した。

(2) さらに、海外研究協力者のマリオ・ウアラス氏(ドイツ・ハイデルベルク教育大学)を講演者並びに討議者として、「2016年度 美術科教育学会 リサーチフォーラム in Osaka, Japan」を開催し、「「アート・プロジェクト教育実践」から探る美術教育の新たな<かたち>」と題するシンポジウムを行なった。

ウアラス氏の提案・実践する「プロジェクト型美術教育」に学び、講演・シンポジウムの記録集を作成し(2016)、日本での可能性を探った。また、これに先立って、ドイツ・デュッセルドルフ市を訪問し、アート・プロジェクト教育の源流を探った。

(3) <研究課題2 「あそび」概念の整理・構築に基づく<図画工作・美術科>題材及び授業モデル開発並びにその実践検証>については、2ヶ月に1回程度、小学校、中学校、高校教員、絵画教室指導者などの研究協力者との打ち合わせ会を持ち、代表者が整理した課題1の内容について、研究協力者と意見交換をした。

その上で、「あそび」体験を活かすことができる<美術教育>題材の開発を行い、小学校、中学校などで実践し、その検証をした。各協力者勤務校での授業動画記録、作品写真を基に、授業モデルとして、動機付け、試行錯誤、教科領域横断的な思考、活動の継続性(繰り返し)の場面を取り入れた事例モデルを作成した。

その一端については、「Potential of Hyakki Yagyo Emaki, a picture scroll depicting one hundred spectres strolling at night as a Teaching Material for Art Education」(2014)、「粘土の「ひねり出し」による人物づくりの題材 - 梶田幸恵の先行実践をふまえた中学校での授業 - 」(2016)として誌上発表した。

(4) <研究課題3 美術教師教育プログラムへの展開>については、研究課題1, 2

の成果について、大学教育や現職教育などでの教師教育プログラムに活かした。通常の授業のほか、中高教員向けの「教員免許状更新講習会 選択領域 中高美術(2016)」, 小学校教員向けの「奈良市教育センター教育支援課 研修 10 年経験者研修講座 図画工作科教育 研修講座(2014,2016)」に反映させた。

引用文献

1) 宇田秀士編著, 宮崎藤吉, 山口二三八, 足立元, 永守基樹『美術科教育学会第5回西地区会<研究発表会 in 奈良>概要集 25 年を経た「造形遊び」の功罪-<新たに切り開いた道>と<巻き起こした混乱・誤謬>』ABS 出版, 2003, 全 78p, pp. 69-78.

2) 宇田秀士編著, 黒岩和子, 團上哲, 長友紀子, 水島尚喜『第 36 回 美術科教育学会 奈良大会 記念プレ学会<研究発表会 in Nara>概要集/発表資料集「美術教育における「遊び」概念と指導」』ABS 出版, 2013, 全 80p.

5. 主な発表論文等

(研究代表者, 研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 5 件)

Uda, Hideshi(宇田秀士), Potential of Hyakki Yagyo Emaki, a picture scroll depicting one hundred spectres strolling at night as a Teaching Material for Art Education, *Oral Presentations Program Book of 34th World Congress of the International Society for Education through Art (InSEA) 7-11 July 2014, Melbourne Cricket Ground, Victoria, Australia Diversity through Art Change, Continuity, Context*(国際会議プロシーディングス), 2014, pp. 365-366.

http://www.insea2014.com/d/program/InSEA2014_Abstacts_Oral_Presentations.pdf

宇田秀士「資料 第 36 回美術科教育学

会奈良大会プレ学会の趣旨-「美術教育における「遊び」概念と指導」『奈良教育大学 次世代教員養成センター 研究紀要』1(通巻 37), 2015, pp. 371-375.

https://www.arts.nara-u.ac.jp/arts/papers/view_main?active_action=repository_view_main_item_detail&item_id=10845&item_no=1&page_id=13&block_id=21

長友紀子, 狩野宏明, 宇田秀士, 竹内晋平「ICT 機器が可能にする協働的鑑賞学習の試み - 中学校美術科における「美術館の展示をつくる」の実践を通して -」『奈良教育大学 次世代教員養成センター 研究紀要』1(通巻 37), 2015, pp. 65-74.

https://www.arts.nara-u.ac.jp/arts/papers/view_main?active_action=repository_view_main_item_detail&item_id=10845&item_no=1&page_id=13&block_id=21

宇田秀士, 安平次直人「粘土の「ひねり出し」による人物づくりの題材 - 梶田幸恵の先行実践をふまえた中学校での授業 -」『奈良教育大学 次世代教員養成センター 研究紀要』2(通巻 38), 2016, pp. 9-17.

https://www.arts.nara-u.ac.jp/arts/papers/view_main?active_action=repository_view_main_item_detail&item_id=10845&item_no=1&page_id=13&block_id=21

宇田秀士「美術教育における「遊び」概念の諸相: 教師の<意識-規範・文化>をふまえて」『美術教育学 - 美術科教育学会誌』38, 2017, 全 526p, pp. 77-91, 500.

<http://www.artedu.jp/gakayishi/>

[学会発表](計 4 件)

Uda, Hideshi(宇田秀士), Potential of Hyakki Yagyo Emaki (a picture scroll depicting one hundred spectres strolling at night) as a Teaching Material for Art Education, The 34th InSEA(International Society for Education through Art) World Congress 2014 in Melbourne, Australia, 2014 7.8.

http://www.insea2014.com/d/program/InSEA2014_Abstacts_Oral_Presentations.pdf

宇田秀士「第 36 回美術科教育学会 奈良大会プレ学会 <2013.12.21> 報告 - 美術教育における「遊び」概念と指導 -」第 37 回

美術科教育学会上越大会,上越市,上越教育大学,2015.3.28.

http://www.artedu.jp/tusin/?action=multidatabase_action_main_filedownload&download_file=1&upload_id=293&metadata_id=14

宇田秀士「ウアラス氏が企画・実践した<ロフト・プロジェクト>の事例と日本の<造形遊び>との比較」2016年度美術科教育学会リサーチフォーラム in Osaka, Japan, 大阪市,大阪教育大学天王寺キャンパス,2016.7.30.

宇田秀士「美術教育における「遊び」概念の諸相：実際の授業像や教師の意識をふまえて」第39回美術科教育学会静岡大会,静岡市,静岡県コンベンションアーツセンター,2017.3.29.

http://www.artedu.jp/tusin/?action=common_download_main&upload_id=521

〔図書〕(計3件)

宇田秀士編著,黒岩和子,團上哲,長友紀子,水島尚喜,重村幹夫,竹谷麻維子,岡田隆史,花篤實,佐藤賢司,坂口信哉,西尾正寛,熊野恵次,村田利裕,大島彰,穴澤秀隆,永守基樹,宮脇理,上山浩,竹内晋平,山木朝彦『第36回美術科教育学会奈良大会 記念プレ学会<研究発表会 in Nara> 2013 記録集』明新社,2014,全80p(全体編集並びに pp.6-18.を執筆)
<http://ci.nii.ac.jp/ncid/BB16599736>

宮脇理監著,佐藤昌彦,山木朝彦,伊藤文彦,直江俊雄編著,宇田秀士ほか39名執筆『アートエデュケーション思考』Book Way,2016,全422p(担当 pp.260-26「美術教育実践を担う者にとっての「遊び」概念とは?-<主体的な造形活動>と<芸術活動の拡がり>の中で-」)

https://bookway.jp/modules/zox/index.php?main_page=product_info&products_id=834&cPath=193

宇田秀士,マリオ・ウアラス,岡田陽子,辻大地,福本謹一,湯川雅紀,鈴木幹雄,佐藤賢司,

山口三佐子,宮崎浩,森芳功,羽太広海,永守基樹『2016年度美術科教育学会リサーチフォーラム in Osaka, Japan 記録集 ドイツの初等教育における「アート・プロジェクト教育実践」から探る美術教育の新たな<かたち> マリオ・ウアラス教授(ドイツ・ハイデルベルグ教育大学)のプロジェクト型美術教育をふまえて-』明新社,2016,全93p(全体編集並びに pp.1-21,51-55,90-93 執筆)

<http://www.artedu.jp/>

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

取得状況(計0件)

〔その他〕
ホームページ等

美術科教育学会 HP
<http://www.artedu.jp>

奈良教育大学学術リポジトリ
https://nara-edu.repo.nii.ac.jp/?page_id=13

InSEA 国際美術教育学会オーストラリアメルボルン大会 HP
http://www.insea2014.com/d/program/InSEA2014_Abstracts_Oral_Presentations.pdf

6. 研究組織

(1)研究代表者

宇田 秀士(UDA Hideshi) 奈良教育大学・大学院教育学研究科 修士課程/教育学部・教授

研究者番号:20283921

(2)研究分担者 なし

(3)連携研究者 なし

(4)研究協力者

岡田陽子(OKADA Youko) 大阪千代田短期大学講師/元大阪府河南町立白木小学校校長

宮崎藤吉(MIYAZAKI Tokichi) 独立研究者

石垣倫生(ISHIGAKI Michio) 近畿大学附属高校講師/園田学園女子大短期大学部非常勤

講師

田邊憲幸(TANABE Noriyuki) 大阪府 茨木
市立東中学校教諭

吉田和子(YOSHIDA Kazuko) 奈良県王寺町
立王寺小学校講師

尾西啓充(ONISHI Hiromitsu) 奈良県平群
町立平群小学校教諭

松本隆行(MATSUMOTO Takayuki) 奈良県大
和郡山市立郡山南小学校教諭

赤座雅子(AKAZA Masako) 子ども絵画造形
教室 Kids'craft 主宰

辻大地(TSUJI Daichi) こどもアートスタ
ジオ副代表

海外研究協力者

マリオ・ウアラス (Mario Urlass)
Professor, University College of
Education, Heidelberg, Germany

徳 雅美(Dr. Masami Toku) Professor,
California State University, Chico,
California, U.S.A.